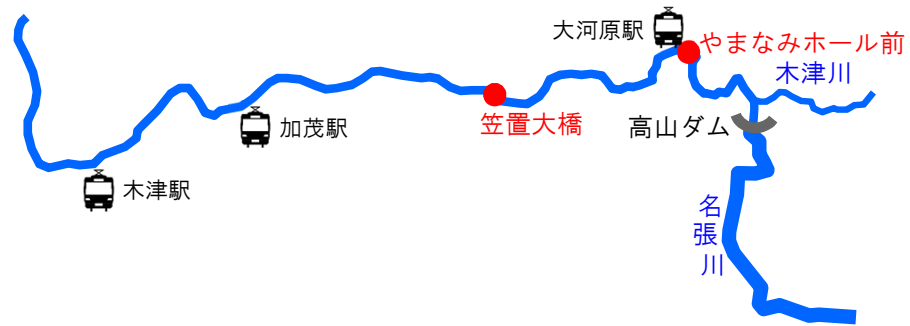


高山ダムフラッシュ放流の状況（令和3年4月14日実施）

高山ダムでは、洪水に備えて洪水が起きた時に洪水を貯め込む容量を確保するため、毎年、4月から6月にかけてダムの貯水位を下げる操作を行っています。

フラッシュ放流は、この貯水位を下げる時の放流水を有効利用して、ダムから流す水を一時的に増やし、川底の石などに付着した泥や藻などを洗い流すことで河川に住む生き物が住みやすい環境を整えるものであり、高山ダムでは平成14年度より行っています。

令和3年度は、安全に配慮した上で、これまでで最大規模となる約90m³/秒の放流を行いました。また、当日の放流は放流設備の点検も兼ねて非常用ゲート（計画規模を上回る洪水時に使用するゲート）から行い、設備の良好な維持管理にも資するものとなっております。



1 門放流（11時10分頃）
放流量：約90m³/秒



全門（6 門）放流（13時50分頃）
放流量：約20m³/秒

様々な放流パターンでゲートの動作確認等を行っています



フラッシュ放流前（10時00分頃）

笠置大橋地点



フラッシュ放流中（13時20分頃）



フラッシュ放流前

やまなみホール前の河床



フラッシュ放流後